

2022年度住総研重点テーマ

「多様化する住まい—環境価値の伝え方」連続シンポジウム

2022年 11月21日(月)

13:10～17:00

建築会館ホールおよびオンライン (Zoom)

東京都港区芝 5-26-20

参加費：無料 (会場・オンライン)

※会場では募金へのご協力をお願い致します。募金は支援金として被災地へお送りします。

定員：会場参加 60名 / オンライン参加 200名

主題解説

秋元孝之 (芝浦工業大学 教授)

講演 (講演順)

鶴崎敬大 (住環境計画研究所 研究所長)

家庭部門におけるCO2排出の実態と更なる削減に向けた取り組み

高口洋人 (早稲田大学理工学術院 教授)

教育と情報提供を通じた住まい手の行動変容

腰原幹雄 (東京大学生産技術研究所 教授)

住宅の木造化・木質化による吸収源対策

川島範久 (建築家 / 明治大学専任講師)

自然とつながるデライトフルな建築による環境負荷削減

パネルディスカッション

司会 秋元孝之

パネリスト 鶴崎敬大、高口洋人、腰原幹雄、川島範久

〈企画〉住総研「住宅の省エネ化推進のための情報発信」研究委員会

〈主催〉一般財団法人 住総研

登壇者、講演テーマは変更になる場合がございます。

脱炭素時代の
住宅における
グレートリセット
第2回

「脱炭素時代の住宅におけるグレートリセット」

(2022/7/14 開催に続く 第 2 回)

人類の活動によって生じる温室効果ガスの増加による気候変動が、世界に深刻な災害を引き起こしている現在、地球環境への負荷提言が喫緊の課題となっている。日本政府が掲げた 2030 年度までに CO2 を 46%削減 (2013 年度比) するという宣言の中で、家庭部門は 66%の削減を求められている事を、国民一人ひとりが現実に喫緊の課題として受け止めているのであろうか？

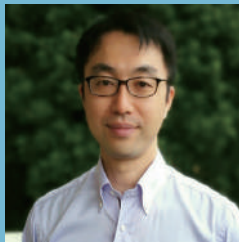
あと 8 年しかない今まさに行動のグレートリセットが求められている。

現在、2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた政府の方針に沿った具体的な対策として、住宅の省エネルギー基準への適合を 2025 年までに義務化すること、2030 年度以降新築される住宅の ZEH 基準の水準の省エネルギー性能を確保すること、2030 年において新築戸建て住宅の 6 割に太陽光発電設備が設置されることを目指すこと、等が議論されている。

我々は地球環境問題と感染症によるパンデミックという相互に関係はあるが性格の異なる大きな問題に直面している。これを千載一遇のチャンスとして、あらゆる仕組みの見直しができるかどうか問われている。ニューノーマルに適合した住宅ストック確保を実現するため、住宅を取り巻く状況の現状分析と課題抽出を行い、脱炭素時代の住宅におけるグレートリセットの方法について様々な観点から議論したい。



秋元孝之
主題解説 / PD 司会



鶴崎敬大
講演



高口洋人
講演



腰原幹雄
講演



川島範久
講演

■ 申込方法

ホームページの申し込みフォームにご記入の上、お申し込みください。

住総研 HP (<http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusoken.html>)

※会場での参加をご希望の方は、当日は必ずマスクを着用してご来場下さい。

※会場にお越しの際は、検温並びにアルコール消毒へのご協力をお願い致します。

※体調のすぐれない方、海外から帰国後 14 日経過しない方の参加はご遠慮下さい。

※オンラインでの参加の方は、録音・録画・撮影 (スクリーンショット) はご遠慮下さい。

■ 申込締切日

11 月 14 日 (月) まで

■ 問合わせ

一般財団法人 住総研

e-mail sympo@jusoken.or.jp

TEL 03-3275-3078 / FAX 03-3275-3079

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-12-2 朝日ビルディング 2 階

※このシンポジウムは継続職能研修 (建築士会 CPD) 認定プログラム (4 単位) です。

■ 会場 : 建築会館



JR 田町駅
三田口徒歩 3 分
都営地下鉄三田駅
A3 出口徒歩 3 分

□ 次回予告

次回のシンポジウムは、

『住まい造りの将来像』をテーマに、2023 年 7 月 建築会館ホールおよびオンライン (Zoom) で開催予定です。

詳細は後日 HP にて公開いたします。